

第56回 中央会通常総会開催

5月30日（水）午後1時30分、第56回通常総会が、前橋市・前橋商工会議所会館において開催されました。

池本武広群馬県副知事をはじめとする来賓のご臨席のもと、330会員が出席し、平成23年度事業報告書並びに収支決算書承認を含む6議案が、すべて可決承認・決定されました。

第56回通常総会は、330会員（委任状出席を含む）が出席し、池本武広群馬県副知事をはじめ、県、関係機関、金融機関等からの来賓出席を得て、定刻どおり午後1時30分に開会された。総会の冒頭、金子正元会長は次のように挨拶。

「需要低迷や受注量減少による収益悪化が顕著になる中で、記録的な円高や原油価格の高止まり等の要因が加わり、中小企業の先行き不透明感は増す一方だ。

昨今の経営環境は、個々の中小企業の自助努力では対応できないほど極めて厳しい状況となつている。それだけに、協同の力で苦境を克服していくことが必要である。



金子会長

としての機能や役割の重要性が改めて見直されており、その「絆」の力に大きな期待が寄せられている。

本会は、中小企業連携組織の専門機関として、「絆」の力を活かした組合組織の強化と共同事業のさらなる充実に向けた支援を積極的に推進していく。

特に、本年度は、中小企業の海外展開の支援、官公需受注の促進、中小企業支援ネットワーク強化事業や農商工連携等による経営力向上の支援、中小商業サービス業の活性化、環境保全活動への支援等の事業を中心に、強力な中小企業の事業を中核に、強力な中小企業支援を展開する。

中央会も各会員組合も、かつてない厳しい経営環境の中で、その真価が問われている。24年度においては、役職員が一丸となつて、中小企業の難局打開に向け、事業の推進と充実に努める所存だ」

ここで次第の一部を変更して、公務多忙の中臨席いただいた来賓から祝辞を頂戴した。

まず、知事代理として出席いただいた池本武広群馬県副知事は、「東日本大震災を契機に相互扶助の精神に基づく中小企業組合の意

義が再認識され、中央会は時宜に適つた支援を実施していただきたい。今後とも、連携組織支援機関である中央会の協力を願う。県としても全国の自治体で初めて制定した群馬県中小企業憲章の理念の下、地域の元気の素である中小企業の振興にきめ細かく努めていく」と挨拶。



松本県議会議長



池本副知事

次いで、松本耕司群馬県議会議長は、「県勢伸展のためには活力ある中小企業の存在が欠かせない。県議会としても中小企業への支援

は県政の最重要事項の一つとして、県執行部や関係機関と連携しつつ今後とも力を入れていく。中央会にも本県産業発展のため尽力を願う」と挨拶。

この後、金子会長が議長に選任され議事に入った。

金沢事務局次長が、事業報告・決算、計画・予算、経費の賦課徴収方法、役員報酬、借入金残高最高度の5議案を一括説明し、全議案とも原案通り可決承認・決定した。



児玉経営者協会会长



相良日銀前橋支店長

続いて、第6号議案として理事の補充選挙を上程。指名推選により、木村創造氏を理事に選任した。これを受けて、総会は漸次休憩、別室にて理事会を開催し、木村理事を常務理事に選任した。

総会は再開され、選任された木村常務理事の紹介・挨拶がなされた後、金子会長は議長を退任、議事すべてを無事終了した。

ここで、臨席頂いた国會議員より祝辞を頂戴。また、金融機関を代表して、相良雅幸日本銀行前橋支店長は、「今後も経済環境に不確実な要素があることは否めない。強力な金融緩和を通じて企業活動をしっかりとサポートしていく。群馬県経済を支える中小企業の皆様が、中央会とともに持てる力を十分に發揮されることを願う」と挨拶。

さらに、友好団体を代表して、児玉三郎群馬県経営者協会会长は、「非常に良い季節を迎えており、政治経済とも不透明を極めている。こうした中、もちろん自助の精神が大切である。加えて、行政にも積極的な支援をお願いします」と述べた。



24年度重点活動目標	
1 組合組織の強化と活動支援	①既存組合活性化への支援強化
2 中小企業支援ネットワーク強化事業による経営力向上の支援	②新規組合の設立の促進
3 農商工連携、地域資源活用、ものづくりの支援	③組合間連携の促進
4 中小商業・サービス業等の活性化支援	
5 中小企業の海外展開の支援	
6 中小企業及び組合の人材確保・育成の支援	
7 環境保全活動の推進	

来賓紹介、祝電披露の後、町田錦一郎副会長の閉会挨拶で、全日程を終了した。